

## 2021年度 第2回 ピットフォール研究専門委員会議事録

日時：2021年10月19日(火)19:00～20:00

場所：ZoomによるWeb会議

出席者（敬称略）：中野 恵一（北海道大学病院）、長田 誠（群馬パース大学）、  
三好 雅士（徳島大学病院）、阿部 雅仁（栄研化学株式会社）、清宮 正徳（国際医療福祉大学）、  
阿部 正樹（東京慈恵会医科大学附属第三病院）、菅野 光俊（福島県立医科大学）、  
濱田 悦子（文京学院大学）、上田 一仁（関西医療大学）、小島 和茂（日本電子株式会社）、  
土筆 智晶（北里大学病院）

欠席者（敬称略）：藤田 清貴（群馬パース大学）、細羽 恵美子（東京女子医科大学病院）  
川崎 健治（千葉大学医学部附属病院）、

### 【報告、確認事項】

#### 1. 相談窓口活動進捗報告（清宮委員）【資料1】

2020年8月から2021年7月まで、ピットフォール相談室を利用された件数は8件で、3件は相談者の施設内で解析を実施し、今年度のシンポジウムで発表いただくこととなった。

#### 2. 2022年日本臨床検査医学会の共催シンポジウムについて

本委員会が担当することです承された。

#### 3. 「ピットフォール研究専門委員会からの挑戦状」濱田委員から進捗報告された。

### 【審議事項】

#### 1. 2022年ピットフォール研究専門委員会シンポジウムについて

担当者2名：細羽 恵美子、小島 和茂に決定

過去の担当

2021年：土筆智晶、阿部 雅仁、2020年：上田一仁、中野恵一、2019年：長田 誠、三好雅士、  
2018年：川崎健治、濱田悦子、2017年：阿部正樹、清宮正徳

#### 2. 2022年日本臨床検査医学会の共催シンポジウムについて

担当者：菅野、阿部正樹

企画内容：担当が確定してから検討することとなった。

過去のシンポジウム

2021年：「POCTに対する検査室の責任—現状・課題・今後」

2020年：臨床化学検査の焦点（ALP、LD IFCCへの移行、AST/ALTホロ酵素測定、血清ビリルビン分画：標準化の現状、中性脂肪測定：遊離グリセロール消去法と非消去法について、アルブミン：改良BCP法と現状、M蛋白：免疫固定法、キャピラリー電気泳動法の導入）

2019年：認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者（権利検査技師）制度と品質保証体制の強化

2018年：脂質関連マーカーのUpdate（5題）

2017年：IFCCの現状と目指す方向性—JSCC、JSLMはどうする？（IFCCとJSCCの活動とハーモナイゼーション、基準範囲設定の調和化：日本と世界の現状、IFCCが臨床化学で果たす教育的活動、甲状腺ホルモンの国際標準化とハーモナイゼーション、膵リパーゼ活性測定の標準化、IFCC and its Members：strengthening and advancing the impact and value of laboratory medicine）

### 3. ピットフォール症例解析マニュアルについて（生化学検査、免疫血清検査）

阿部・中野委員から提示されている。【資料2、3】

フォーマットをそろえて、改めて提示することとなった。

### 4. その他

ピットフォール事例集の追加について、過去のシンポジウムで発表頂いた事例を追加していくことを確認した。発表担当者に解析の進捗状況や論文化の有無について確認することになった。